

感想文

91140

今回の1か月間の研究室配属で細胞の培養、遺伝子導入、TAクローニング、制限酵素反応、電気泳動などの実験手技や物事の考え方、生理活性ペプチドであるAMなどたくさんのことを学ぶことができました。

桑迫先生はたださまざまな知識を教えてくださいではなく、質問することで私達に考えさせて教えてくださいました。今までどれだけ自分が実験や単語の意味に疑問を持たずに何となく実験や授業に参加していたかを思い知りました。またそうやって考えて身につけた知識はただ単純暗記で身につけた知識より定着がいいことも感じました。これからは単純暗記するのではなくなぜそれが起きるのか、どうやって起きるのか考えることを増やしていこうと思います。

桑迫先生は実験を始める前に、その実験を行う目的、手順、実験器具を使う際のちょっとしたコツなど詳しく教えてくださいました。私は今までの生化実習中といった実験中の作業が何を目的として行っているか何となく分かったつもりになっていましたが、今回の研究室配属で全く分かっていないことに気付きました。

実験中に失敗したときも怒るのではなく、なぜ失敗したのか、またどうすればその失敗をしなくてすむか丁寧に教えてくださいました。今までの実験では私は手先が器用な人に任せて実験を周りから見ていたことが多かったため最初の方は失敗が多かったですが、桑迫先生の丁寧なご指導のおかげで最後の方では実験の失敗はずいぶん減ったと思います。

また実際にやってみると周りからただ見ているの自分自身の手で行うのは全く違うと思いました。今後の授業で実験を行うことはないのですが、今まで行った実験の前にも研究室配属があったら実験に対する姿勢は全く違っていただろうと思います。

実験とは別に Expression of adrenomedullin in human colorectal tumors and its role in cell growth and invasion in vitro and in xenograft growth in vivo という英語論文を読むことで、英語論文をよむポイント、論文を書く際に注意することも学びました。研究医にとっても臨床医にとっても英語論文を読むことで新しい知識を学んでいくことは非常に重要なことです。しかし実際に読んでみると難しい専門用語もたくさんあり論文の英文の意味を理解するのに多くの時間がかかり、自分の勉強不足を感じました。すぐに英語力は身につくことはないので日々少しずつ英語の勉強をしていこうと思います。

またグラフを説明する際に相手に上手に説明することの難しさを感じました。自分は論文を読んでいるため分かるが、相手には分からないことがあるので細かいところも丁寧に説明することが必要だと思いました。

最後にこの研究室配属という場を提供してくださった加藤丈司先生、お忙しい中つきっきりで丁寧に指導してくださった桑迫健二先生にお礼を申し上げます。この一か月間本当にありがとうございました。